

■ 巻頭言 ■

総合理学研究所の発展を期して

鈴木季直

神奈川大学総合理学研究所 所長

Looking forward to Development of the Research Institute for Integral Science

Suechika Suzuki

Director of the Research Institute for Integrated Science, Kanagawa University

私儀、所員皆様のご指名を頂きまして、本年四月より、前齊藤光實所長の後任として総合理学研究所所長に就任致しました。この場をお借りして、就任のご挨拶を述べさせて頂きます。

総合理学研究所は、神奈川大学学則第4条に基づき、理学に関する研究と調査を行い、学問の向上と発展に寄与することを目的として、湘南ひらつかキャンパスの理学部開設に伴って設置されました。爾来、理学部教員を兼任する教員が中心となり、本学における理学研究の発展のために円滑に運営されてきております。特に、研究、教育、広報を研究所活動の三本柱とされた齊藤光實前所長の研究所運営構想は、実現された幾つかの具体的な事業とともに大いに評価されるものであり、今後もより発展させなければならないものと考えます。

研究と広報の両面性を備えた具体的な事業として実現されたものの一つは、本誌、*Science Journal of Kanagawa University* (神奈川大学理学誌) の出版であります。本格的な科学誌の体裁を整えた本誌の発行により、研究所が推進する学内外の研究者との共同研究や理学部における研究成果の公開の場が広がりました。所員である教員の他に、大学院生の研究成果発表の場としても活用され、その意味では、本誌の発行は若手研究者育成のための教育の一環としても役立っています。本年度以降も、本誌をより充実させるための努力を重ねる所存です。

研究所は独自の予算を持ち、学内外研究者との研究を促進するために毎年共同研究を公募し、採用された応募研究には助成金を配付しています。かつては研究所が環境問題等の特定課題を設定したこともありましたが、ここ数年は自由課題とし、採択件数も絞り、できる限り若手の研究者を支援する方針で選考を行ってきました。これについても暫くはこの方針に沿って共同研究支援を継続したいと考えてお

ります。

研究所が行う教育に関する事業としては、従来、独自の講演会開催や、講演会共催、サマースクールへの資金援助などが行われて来ています。これらの継続はもとより、可能な具体的教育活動について検討し、実現させなければならないと感じています。

広報に関して具体的に実現されたものとしてホームページの公開があります。昨年度、担当の豊泉龍児先生のご努力により、ホームページにリンクして既刊の *Science Journal of Kanagawa University* の全論文も閲覧できるようになりました。今後、より充実した内容を含むホームページへの改編を行っていきたいと考えています。

本年は、本学理学部が創設されてから 20 年目になります。大学および学部中心で既に幾つかの記念事業の計画が検討されています。総合理学研究所としても、例えば、公開研究発表会や記念学術出版などの記念事業を企画できれば幸いです。今後、運営委員を中心にして検討したいと考えています。

地球温暖化による様々な環境異変が報じられる中で 21 世紀以降に人類が地球の自然をどこまで自然のまま引き継いでゆけるかが問われています。自然科学に関わる実学は数多くあっても、問題解決のための基盤は理学によって与えられると確信しています。幸いにも、私達は理学の一翼を担う立場で研究と教育に携わっており、総合理学研究所はその活動を支えるために機能しうる組織です。本学理学部および大学院理学研究科の円滑な発展を期し、微力ながら、職責を果たして参る所存です。最後になりましたが、総合理学研究所の今後の活動に所員皆様これまで以上の篤いご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。